

欧州連合における都市交通調査の調和化

Harmonization of Urban Transport Surveys in the European Union

磯野昂士¹ 稲原 宏² 石神孝裕³

Koshi ISONO, Hiroshi INAHARA, and Takahiro ISHIGAMI

1 EUにおける調査手法共通化の取り組み

EUでは、地球環境負荷軽減を目的とした交通投資が行われており、各都市が実施している施策の効果を捉えることが喫緊の課題となっている。国同士で比較可能なデータを得るため、EUの統計を担当する部局であるEurostatでは共通の調査項目や指標について示したガイドラインを作成した。本稿では、Eurostatへ2023年12月に実施したヒアリング結果を報告する。

EU加盟国では、NTS (National Transportation Survey: 日本における全国都市交通特性調査に相当) が一部の国で実施されてきた。しかし、各国の調査はその国のための調査であったため、調査手法は国によって異なり、単純に比較することは難しかった。たとえば、国をまたぐ長距離トリップについては、国境までの移動を調査する国もあれば、空港までの移動を調査する国、さらには国をまたぐトリップは調査対象としていない国もあった。異なる国同士の間で正確な比較が可能な調査結果を得るためには、調査方法や定義を揃える必要がある。さらに、NTSを実施していない国もあるため、NTSの蓄積のある国のノウハウを移転しつつ、共通の調査手法で調査することも必要であった。

そこで、NTSの蓄積のある国を中心としてタスクフォースを立ち上げ、共通の調査方法の検討が開始された。2016年に初版のガイドラインを発行し、これまでNTSの蓄積のない国を中心にガイドラインに従った調査の予算的支援を構築、13の国で調査が実施された。図-1は、トリップ距離の目的別構成比を国同士で比較したものである。共通の調査方法論を定めることで、このような比較が初めて可能になった。

2 NTSの「調和化」

共通の調査方法論を検討したものの、既にNTSの蓄

積がある国々からは、各国で伝統的に行われてきた各々の手法で調査を継続しながら、EUで必要な指標を算出できるよう調整したい、との意見が寄せられた。そこで、Eurostatは、重要な指標を共通に算出できることに焦点を絞り、そのために最低限必要な調査項目や算出方法を示したガイドラインを2018年に発行した。指標は、特にEUにおいて重要な、交通の環境負荷に関する指標に絞られており、たとえば一人一日あたりのトリップ数、トリップ距離、トリップ時間等について集計仕様が記載されている。そのほか、推奨される調査手法についても記載されている。ただし、これらに法的拘束力はない。

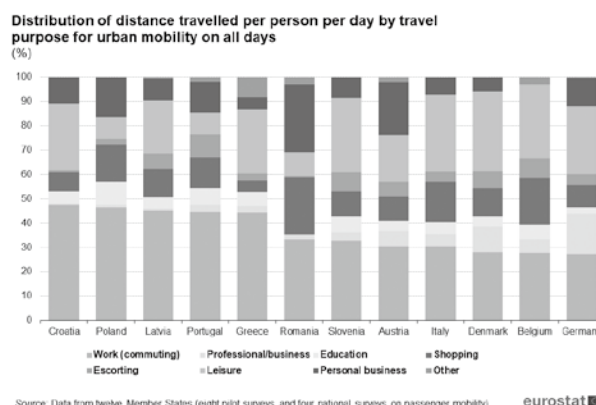


図-1 国別のトリップ距離の目的別構成比

出典) Eurostat: EU Transport Statistics Eurostat guidelines on Passenger Mobility Statistics, 2018

3 おわりに

我が国では、国土交通省都市局が、パーソントリップ調査の効率的実施、品質の確保を目的として、標準的な調査手法や調査項目、データ仕様について記載した解説書を、2024年6月に策定した (IBS受託業務)。今後、調査結果から算出すべき標準的な指標の設定、可視化、都市圏同士の比較についても検討することが必要であるという示唆を得た。